香川県の地震・津波に関する防災風土資源

| 整理番号 | 香震 1 | , , , , , , , | | 嘉永 7 | | 造濃池決場 | | | | |
|--------------|--|--|--|--|--|---|--|--------|---|--|
| 災害種別 | 水害・治 | 台水 | 地震・津波 | | 上砂災害 | Î | 渇 | 水・利水 | | |
| 場所 | 香川県仲多度郡まんのう町神野 | | | | | | | | | |
| 見所・ アクセス | まんのう町の満濃池の堤は、嘉永7年7月に決壊したことが知られています。1854年6月の伊賀上野地震でダメージを受け、漏水が始まった満濃池は一ヶ月足らずで決壊したと云われています。安政南海地震で壊れたものではありません。満濃池は国道32号から県道200号線を南に約5.5km行った所にあります。 | | | | | | | | | |
| 写真・図 | 写真: | TARGET AND | の 1000の 1000 では、 10 | 25 A CONTROL OF THE STATE OF TH | できたと Table Tabl | | # 4 A A A A A A A A A A A A A A A A A A | | BALLANDERS OF THE STATE OF THE | |
| 371 | TED | | TE is 7 | | race four follows and the fol | TOOR SPILE. GRADENIE | A CONTRACTOR OF THE CONTRACTOR | PN(1) | 用的余线(PEA的信息) | |
| 解説文 | 写真 6 写真 7 写真 8 写真 9 写真 10 満濃池の堤 (写真 1) は、嘉永 7 年 7 月に決壊したことが知られています。磯田道史氏は「天災から日本史を読みなおす」(中公新書 2014 年)の中で、嘉永 7 年 7 月の満濃池決壊について、「一八五四年六月の伊賀上野地震は、各地でため池を決壊させた。なんと遠方の香川県の満濃池(現まんのう町) (写真 2) にダメージを与え、漏水がはじまった満濃池は一ヶ月たらずに決壊した。「数日前から決壊の前兆があったので人畜の被害はなかった」が「多くの田畝を損じた」と『高松藩記』にある」としています。また、芳澤直起氏研究、嘉永 7 年 7 月満濃池決壊によると「満濃池は「大宝年中国守道守朝臣之所築也」とあるように古代より現在に至る迄、長きにわたる歴史 (写真 3) を持つ。しかし、その歴史は一様なものではなく、数多くの決壊と修復 (写真 4) が繰り返され、多くの先人の労苦により現在の姿となったのである。幕末期、満濃池は、第永七(一八五四)年七月に決壊し、その後十六年間切れることは無かった。」としています。さらに、各種史料から考察し、おわりに、「嘉永七(一八五四)年七月の満濃池崩壊を地震を原因とする説は、強烈な地震が発生した結果、満濃池のような巨大なため池をも破壊した。それほど地震は強烈であったと地震の脅威を強調しているが、地震が起こる前に行われた (写真 5) 従来の木樋から石樋に変えた新工法 (写真 6) が既に問題を発生していた。つまり地震はひとつの契機であり、満濃池が万全ではなかった為崩壊したと考える。(中略) 決壊時、満濃池周辺の住人達は早々に警戒体制をとり、その結果、人的被害が最小限に押さえられていることがわかります。」と記されています。現在でも自然災害において被害規模の想定や、その被害発生に直面した際の対応について過去の事例が参考になります。東日本大震災では、福島県にある農業用のため池、藤沼湖(高さ18m、長さ13mの足りが決壊しました。このとき多量の貯水が濁流となって下流の集落を襲い、死者・行方不明者 8 名、家屋全壊 22 戸等の甚大な被害が発生しています。以来、行政では、ため池のハザードマップを示し、住民の皆さんに日ごろから、浸水想定区域や避難経路を確認するなど、迅速な避難行動や災害応急対応を行えるように促しています。現在、満濃池もハザードマッブから推定したちまその浸水エリアをフリーハンドで描いたものです。もし清濃池が決壊すれば、氾濫が広範に及ぶ被害が想定されていいます。写真 8 は満濃池の下流から撮った航空写真にハザードマッブから推定したおよその浸水エリアをフリーハンドで描いたものです。もしの過速な遊離が想定されていいます。 4 真 8 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 2 は 2 は 2 が 2 で 3 は 3 は 3 は 3 は 3 は 3 は 3 は 3 は 3 は 3 | | | | | | | | | |
| 得られる | | | は、ため池のハ | | | | 歴史災害も参 | *考に、今後 | 後も発生す | |
| 教訓教訓分類 | るであろう南 被害防止 | | 大地震に備える | ことを 教 えて 復旧・復興 | くれてい 自助 | ます。。 共助 | 公助 | ハード | ソフト | |
| 3/11/1/J 75K | I/V IZ I2/1TT | vm | > H \11\/F. | ALL XX | H 5/7 | 7,-73 | | | | |

明治・大正

昭和30年代まで

昭和 60 年代まで

江戸時代

時代

| 整理番号 | 香震 2 | 田潮八幡宮の由来碑 | | | | | | | | | | |
|-----------|---|--|---------------------|----------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 災害種別 | 水害・治水 | 地震・ | 津波 - | 土砂災害 | 渇水・利 | 水 | | | | | | |
| 場所 | 香川県丸亀市土器町東5丁目 | | | | | | | | | | | |
| | 丸亀市土器町の田潮八幡宮の石碑にその由来が刻まれています。石碑には南北朝時代、細川頼之が将軍 | | | | | | | | | | | |
| | 足利義詮の命により、細川清氏を攻めた時、・(中略)・社前の水田地帯一面に潮が満ち、敵軍を防いだの | | | | | | | | | | | |
| 見所・ | で、田潮八幡宮と | で、田潮八幡宮と称されたと伝えています。これが 1361 年の正平南海地震の津波では、と最近研究者の | | | | | | | | | | |
| アクセス | 間に出来てきます | • | | | | | | | | | | |
| | 石碑には、国道 | [11 号を丸亀に向な | い土器川手前、 | 飯野の交差点を右右 | 折し約 1.5km 北に進ん | んだ所のセコ | | | | | | |
| | ム丸亀支社横の交 | 差点を右折して山 | 側に約 400m 進む。 | と鳥居があります。 | その奥に石碑があり |)ます。 | | | | | | |
| 写真・図 | 田瀬神社(東京・山東に参うわら言い伝え では、「中では、「中では、「中では、「中では、「中では、「中では、「中では、「中 | | | | | | | | | | | |
| | 写 | 真1 | 写真 | Į 2 | 写真 3 | | | | | | | |
| | 香川県丸亀市土器 | 町の田潮八幡宮の | 名前の由来にまつ | わる言い伝えが、 | 南海地震津波に関連 | しているので | | | | | | |
| | はという話があり | ます。現在の海岸 | から 2km 程度入っ | たところにある田 | 潮神社(写真1 の右の | の写真) の石 | | | | | | |
| | 碑に、その由来が | 刻まれています。 | | | | | | | | | | |
| | その田潮神社の由 | 来が刻まれた石碑 | 刻字(写真 2)には | 、「南北朝時代、貞 | [治元 (1362) 年7月 | 、細川頼之が | | | | | | |
| | 将軍足利義詮(よ | しあきら) の命に | より、細川清氏を | 文めた時、・・・ | (中略)・・・全讃史は | には、はじめ | | | | | | |
| | 源少将が攻めてき | たとき、頼之は、 | しばらく当社付近 | へ退却したが、社 | 前の水田地帯一面に | 潮が満ち、敵 | | | | | | |
| | 軍を防いだので、 | 田潮神社と称された | た」と伝えていま | す。確かに田潮神 | 社前は現在でも 写真 | 1の右の写真 | | | | | | |
| | のように低地とな | っています。沿岸 | 部から近い田潮神 | 社 (写真 3) 場所 | から考えると、この | とき潮が満ち | | | | | | |
| 解説文 | たと云うのが正平 | の南海地震津波で | あった可能性があ | ります。 | | | | | | | | |
| 711 10000 | 写真 1 の右図(17 | 707 宝永地震報告書 | 平成26年3月内 | 閣府 P9)に示す南 | 海トラフの地形・地質 | 質と巨大地震 | | | | | | |
| | の履歴から見ると | 、古文書記録では、 | 南海トラフ地震 | は、684年の白鳳地 | 也震から 1946 年の昭 | 和南海地震ま | | | | | | |
| | で9回発生したと | され、その中で 13 | 361 年の正平地震 | (しょうへいじし | ん)は、宝永地震や | 安政地震と同 | | | | | | |
| | じように津波被害 | の著しい南海トラ | フの巨大地震津波 | だったと言われて | おり、石碑刻字が 13 | 362年と1年 | | | | | | |
| | | | | | あります。もしそう | | | | | | | |
| | | | | | な手掛かりなるとと | | | | | | | |
| | | | | る可能性が高いこ | と、今後の津波防災 | を考える自然 | | | | | | |
| | 災害伝承の素材に | なることを教えて | くれています。 | | | | | | | | | |
| /日 à 1 マ | 11.11 - 6- 11 | | | # # # # = | た 145年 - 2 - 2 12 - 2 - 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 | ~ \h_ \h_ \\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ | | | | | | |
| 得られる | | | の言い伝えから | 歴史地震の正平南洋 | 毎地震でこの付近まで | で津波が来た | | | | | | |
| 教訓 | 可能性を教えてい | | /= | <u> </u> | ДПЬ | | | | | | | |
| 教訓分類 | 被害防止 | 準備 災害対 | | 自助共助 | 公助 ハート | | | | | | | |
| 時代 | 江戸時代以前 | 江戸時代 | 明治・大正 | 昭和 30 年代まで | 昭和 60 年代まで | 平成以降 | | | | | | |

| 整理番号 | 香震3 | | | 宝永津波で | 高松、 | 万湖水高 | 6尺 | | | | | |
|-------------|--|--|-------|--|------|--|---|------------------|------------|--|--|--|
| 災害種別 | 水害・治 | 7K | 地震・津波 | - | 上砂災害 | | 渇 | 水・利水 | | | | |
| 場所 | | 香川県高松市玉藻町 | | | | | | | | | | |
| 見所・ アクセス | 香川県の高校 松では 1.8m の | 香川県の高松で宝永地震で「高潮来り平地之上六尺、御城下人家多破壊し、人馬死者多し」とあり、高松では1.8mの津波があったとの記録が玉藻公園にあります。 高松城跡「玉藻公園」は、高松港に前にあります。 | | | | | | | | | | |
| 写真・図 | 全外地国主席の基本連 北外洋地で成長。 明治水路の代的 1.8m)記念計 位に整理設計研 で最初は非常記念 TPZ8mとせる。 | The second secon | 字真 2 | ENGLISHED SEED SEED SEED SEED SEED SEED SEED | | 海戸内海の歴 津底の研究者 海戸内海沿岸 の機変による があった。 高松でも1.8m あったとされて | 史南海地震 の調査では、 各地におけ 変の津波高 とで3m津波 とで3m津波 | 心駅の方向から高松市 写真 | | | | |
| 解説文 | 写真1 写真2 写真3 写真4 香川県の津波の記録は、1707年の宝永地震、1854年の安政南海地震、1946年の昭和南海地震の記録しか見当たりません。丸亀市の田潮八幡宮名前由来の伝承が1361年の正平地震の可能性は残っていますが、宝永津波については、高松藩の公文書記録(香川叢書二 (続讃岐国大日記)、翁嫗夜話巻之一下、消暑漫筆四 (東京大学地震研究所編,1983)) (写真1) によると、高松では、「高潮来り平地之上六尺、御城下人家多破壊し、人馬死者多し」とあり、この津波で1.8m浸水したことがわかます。瀬戸内海における歴史南海地震津波の分布(山本尚明:瀬戸内海の歴史南海地震津波について、歴史地震、第19号(2003)) (写真2) によると、瀬戸内海でも最大3m程度の津波があったこと、宝永津波で高松は1.8mの津波があった図(写真3)が示されています。 写真4には、現在の高松市中心街と高松城との関係がわかる航空写真を示します。最近の芳澤直起氏の研究「宝永地震における高松藩の被害状況(香川県文書館起要第18号 p41-54(2014) では津浪などの高松城下町の被害の状況など次のように述べています。「「翁嫗夜話」:来日夜小震数笑潮汐高干恒五六尺堤防多潰とあり、地震当日に小さな地震が数度発生し、潮位は通常より五、六尺(約1.5~1.8m)高くなり、堤防の多くが破損されたと記されていることや「消暑漫筆」:高潮来たり平地之上深事六尺、翁嫗夜話の記載と同様、通常の潮位より六尺程度高い潮が来たと記されていることから、宝永地震という巨大な地震においては、瀬戸内海という内海においても高さが約1.8m程度の津波を発生させ、港の堤防を多くを破壊する被害を出している」としています。四国の瀬戸内海沿岸は、淡路島や足摺岬などの東西の天然防波堤で護られ、津波は浸入しにくく、太平洋側に比べて小さくなりますが、その反面、東西の両海峡から入った津波は複雑な挙動をすることに注意が必要です。 | | | | | | | | | | | |
| 得られる 教訓 | 瀬戸内海の一波が来る可能 | | | 津波高などよ | り、南海 | トラフの目 | 巨大地震では | は沿岸域が浸 | - 曼水する津 | | | |
| 教訓分類 | 被害防止 | 準備 | 災害対応 | 復旧·復興 | 自助 | 共助 | 公助 | ハード | ソフト | | | |
| | | | | | j e | | | ı | | | | |

明治・大正

昭和 30 年代まで

江戸時代

時代

| 整理番号 | 香震 4 | | 主 | 永地震の | 高松藩の被害 | 記録 | | | | | |
|-------------|--|---|---|---|---------------------------------------|--|----------------------|--|--|--|--|
| 災害種別 | 水害・治 | 台水 | 也震・津波 | 土石 | 沙災害 | | 水・利水 | | | | |
| 場所 | 香川県高松市木太町 | | | | | | | | | | |
| 見所・ アクセス | 時代、松島・永地震の激し | 宝永地震で高松の干拓地に液状化、地割れなどの防潮堤防に被害があった記録が残されています。藩政時代、松島・木太付近の干拓地に干拓事業で造られた防潮堤上に志度街道を通したため、軟弱な地盤が宝永地震の激しい振動の為、地割れや液状化被害が発生したいうものです。現在の木太町の観光道路(県道155号線)が被災したというものです。 | | | | | | | | | |
| | 写真] | 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | の高松準の後来状況 (1) 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 | 写真3 | N N N N N N N N N N N N N N N N N N N | の大学の大学の名式工作機 体質が必要なの様子 | 写真 5 | | | | |
| 写真・図 | 昭和初期、改良前の前田川橋 (田川市市・東京の東京・東京で見る。 東京で東京である。 東京では、東京の東京である。 | 関辺の様子 昭和初期の春日 | 芸術から見た志俊街道の様子 現場、大名が初声が加えるかな主動 の表現の表現の表現の表現の表現の表現の の表現の表現の表現の表現の表現の のの表現の表現の表現の表現の のの表現の表現の表現の のの表現の表現の表現の のの表現の表現の表現の のの表現の表現の のの表現の表現の のの表現の を のの表現の を ののである。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 ののでも。 の。 の。 の。 ののでも。 ののでも。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 | 図和11年の毎日川橋工事と (成为11日初4年)・「発表力量約0点 (成为11日初4年)・「発表力量約0点 (以来11日前7年)・「第1日) | の周辺の様子 は つみが望らか 自分が住んでいる | 祖帰りの視点が大事 大地の本当の題転を知ること 「アンドー 「本学 | AND SOLD OF THE PLOT | | | | |
| | 写真 6 | 写』 | 真7 | 写真8 | 写 | 真 9 | 写真 10 | | | | |
| 解説文 | 写真 6 写真 7 写真 8 写真 9 写真 10 宝永地震は宝永四 (1707) 年 10 月 4 日に発生した M8.6 の我が国最大級の巨大地震とされ、津波などで全国で死者は推定二万人とも言われています。高松 (写真 1) でも大きな被害あったことが史料(写真 2) から分かっています。 芳澤直起氏の研究「宝永地震における高松藩の被害状況」よると、各種史料から、山崩れ (五剣山の崩壊・の様子)、液状化 (地面が裂け、水が地面から湧いている様子)、地割れ (「地裂テ」「土地われる」)の被害の程度、津波高、津浪被害の様子、高松城下町の被害の具体的な場所などが詳しく述べられています。 藩政時代の松島・木太付近干拓地推定図 (写真 3) を示し、西嶋八兵衛や高松藩初代藩主の松平頼重の干拓事業で造られた防潮堤上に志度街道を通したため、軟弱な地盤が宝永地震の激しい振動の為、地割れや液状化被害が発生したのである。」としています。その図に登場する松島・木太付近の埋立 (開拓地)の状況がわかる松島干拓地周辺略図 (写真 10) と現在の状況を写真 4 に示します。昭和初期の観光道路の改良工事時の様子をまとめた高松今昔物語 (国土交通省香川工事事務所)の昭和9年の地形図 (写真 5) やその当時の写真 (写真 6、7、8) に示すように、その周辺が農村低地であることがわかります。また戦後、米軍が撮影した高松市の航空写真 (写真 9) からも高松が塩田や水田があり、昔、海であった軟弱地盤の上に発展した街であることがよくわかります。 | | | | | | | | | | |
| 得られる | 現在は多く | のビルや住宅が | 建ち元々の地形 | がわかりに | くくなっていま | すが、自分が | 住んでいる本当の地 | | | | |
| 教訓 | 形を知ること | 、「先祖帰り」の | の視点が必要で | あることを刺 | 対えています。 | | , | | | | |
| 教訓分類 | 被害防止 | 準備 | 災害対応 復 | 旧·復興 | 自助 共助 | 公助 | ハード ソフト | | | | |
| 時代 | 江戸時代以 | 前江戸町 | 诗代 明治 | ・大正 | 30 年代まで | 昭和 60 年代 | まで 平成以降 | | | | |

| 関所・ になりました。当時の様子を辛札町史は、「五剣山の一峰崩れて落ちたり。 火光雷の如く、其の響海方式で見えることができ、その背面の五剣山を関近に見ることができます。 | 整理番号 | 香震 5 五剣山の山容 | | | | | | | | | |
|--|-------------|--|-----------|-----------------------------------|---|---------------------|------------------|--|--|--|--|
| 展所・ になりました。当時の様子を牛札町史は、「五剣山の一峰崩れて落ちたり。火光電の如く、其の鬱造方式でした。当時の様子を牛札町史は、「五剣山の一峰崩れて落ちたり。火光電の如く、其の鬱造方式でした。でき、その背面の五剣山を間近に見ることができます。 「本地山の海の温度を増加した。」 写真 2 写真 3 写真 4 写真 5 写真 6 写真 6 写真 6 写真 6 写真 6 写真 6 写真 7 写真 7 | 災害種別 | 水害・治水 | 地震・済 | 津波 - | 上砂災害 | 渇水・利 | | | | | |
| 原子・ になりました。当時の様子を本礼町史は、「五剣山の一峰樹れて落ちたり。火光笛の如く、其の響造方式で聞えたり。」と大震動で崩落したことを伝えています。人業寺には、八栗登り口から八栗ケーブルで介くことができ、その背面の五剣山を間近に見ることができます。 | 場所 | 香川県高松市牟礼町・庵治町 | | | | | | | | | |
| アクセス で開えたり。」と大震動で崩落したことを伝えています。八果寺には、八果巻り口から八果ケーブルで行くことができ、その背面の五剣山を間近に見ることができます。 | | 高松市の第85番札所八栗寺の背面にそびえる五剣山が宝永地震により東の峰は崩壊して、現在の山容 | | | | | | | | | |
| 写真・図 写真・図 | 見所・ | になりました。当時の様子を牟礼町史は、「五剣山の一峰崩れて落ちたり。火光雷の如く、其の響遠方ま | | | | | | | | | |
| 写真・図 写真 1 写真 2 写真 3 写真 4 | アクセス | で聞えたり。」と大震動で崩落したことを伝えています。八栗寺には、八栗登り口から八栗ケーブルで行 | | | | | | | | | |
| 写真・図 写真 1 写真 2 写真 3 写真 4 | | くことができ、そ | その背面の五剣山を | 間近に見ることが | できます。 | | | | | | |
| 写真・図 1973年を機能である発展の開催 1973年を機能である発展の開催 1973年を機能である発展の開催 1973年を機能である発展の開催 1973年を機能である発展の開催 1973年を機能である発展の開催 1973年を構作 1973年を機能である発展の開催 1973年を構作 1973年を発生し、5 のの峰のうち東の峰 (写真 2) は崩壊して、いまでは "四剣山" になっています。現在の五剣山の山谷は勝むした 1973年を見いまっている様子がよくわれています。当時の様子を牟札町史は、「五剣山の一峰崩れて落ちたり。火光雷の如く其の響遠方まで開えたり。」と大震動で崩落したことを伝えています。今後、遭遇するであろう南海地野では、地震動が大きく、被害を受ける危険性が高いことを伝えています。今後、遭遇するであろう南海地野では、地震動が大きく、被害を受ける危険性が高いことを被えてくれています。現在の五剣山の山谷を南海地震動の警鐘ランドマークとして、郷土の大地の宿命を忘れず、もしもの時に備え「家具の配置や転倒防止」など家族の命を守る具体的な対策に活かしてほしいと思います。この宝永地震は南海、東南地震動の警鐘ランドマークとして、郷土の大地の宿命を忘れず、もしもの時に備え「家具の配置や転倒防止」など家族の命を守る具体的な対策に活かしてほしいと思います。この宝永地震は南海・東海・東海・東海・東海・東海・東海・東海・東海・東海・東海・東海・東海・東海 | | 現在の五剣山の山容 | | | | | | | | | |
| 第2章 1 | | 写真 1 | | 写真 2 | 2 | 写真 3 | 写真 4 | | | | |
| 今から 306 年前の 1707 年 10 月 28 日に M8. 4、8.6 ともいわれている宝永地震が発生し、5つの峰のうち東の峰(写真 2) は崩壊して、いまでは"四剣山"になっています。現在の五剣山の山容は写真 1 のとおりです。八栗寺の正面から撮影した写真 5 からも四剣山になっている様子がよくわかります。香川大学長谷川修一教授らが調査結果(写真 6)では、北部(庵治町側)と南部(牟礼町側)転倒崩落してことが報告されています。当時の様子を牟礼町史は、「五剣山の一峰崩れて落ちたり。火光雷の如く其の響遠方まで聞えたり。」と大震動で崩落したことを伝えています。今後、遭遇するであろう南海地界では、地震動が大きく、被害を受ける危険性が高いことを教えてくれています。現在の五剣山の山容を南海地震動の警鐘ランドマークとして、郷土の大地の宿命を忘れず、もしもの時に備え「家具の配置や転倒防止」など家族の命を守る具体的な対策に活かしてほしいと思います。この宝永地震は南海、東南海、東海地震の地震三兄弟といえる地震が同時に発生したもので過去の南流地震で最も大きなものであり、香川県でも大きな揺れがあったことを現在の五剣山の山容が教えてくれています。また地質構造的な特徴は、香川大学工学部 長谷川修一教授が社団法人四国建設弘済会平成2年2月発行の四国の地盤 88 箇所 80 番の中で、写真 3、4 の資料のように詳しく紹介しています。 得られる 現在の五剣山の山容は、南海地震動の警鐘ランドマークとして、香川県でも南海地震で大被害を受ける危険性があることを教えくれています。 復日・復興 自助 共助 公助 ハード ソフト | | | 5 | ・ 最石が転倒するように山頂の ・ 八葉寺に大きな被害を与えた(名 | 岩峰が順捷 谷川ら、2009) 東原岩域 44.7%(41 6.00)(4) | ᆞᆽᅮᄭᆝᆡ <i>ᆝᄆ</i> ᆍᅧ | | | | | |
| 東の峰 (写真 2) は崩壊して、いまでは "四剣山" になっています。現在の五剣山の山容は写真 1 のとおりです。八栗寺の正面から撮影した写真 5 からも四剣山になっている様子がよくわかります。 香川大学長谷川修一教授らが調査結果 (写真 6) では、北部 (庵治町側) と南部 (牟礼町側) 転倒崩落してことが報告されています。当時の様子を牟礼町史は、「五剣山の一峰崩れて落ちたり。火光雷の如く其の響遠方まで聞えたり。」と大震動で崩落したことを伝えています。今後、遭遇するであろう南海地震では、地震動が大きく、被害を受ける危険性が高いことを教えてくれています。現在の五剣山の山容を南海地震動の警鐘ランドマークとして、郷土の大地の宿命を忘れず、もしもの時に備え「家具の配置や転倒防止」など家族の命を守る具体的な対策に活かしてほしいと思います。この宝永地震は南海、東南海、東海地震の地震三兄弟といえる地震が同時に発生したもので過去の南海地震で最も大きなものであり、香川県でも大きな揺れがあったことを現在の五剣山の山容が教えてくれています。また地質構造的な特徴は、香川大学工学部 長谷川修一教授が社団法人四国建設弘済会平成2年2月発行の四国の地盤88箇所80番の中で、写真3、4の資料のように詳しく紹介しています。 得られる教訓 現在の五剣山の山容は、南海地震動の警鐘ランドマークとして、香川県でも南海地震で大被害を受ける教訓 な害防止 準備 災害対応 復旧・復興 自助 共助 公助 ハード ソフト | | | | | | | | | | | |
| りです。八栗寺の正面から撮影した写真5からも四剣山になっている様子がよくわかります。 香川大学長谷川修一教授らが調査結果(写真6)では、北部(庵治町側)と南部(牟礼町側)転倒崩落してことが報告されています。当時の様子を牟礼町史は、「五剣山の一峰崩れて落ちたり。火光雷の如く其の響遠方まで聞えたり。」と大震動で崩落したことを伝えています。今後、遭遇するであろう南海地震では、地震動が大きく、被害を受ける危険性が高いことを教えてくれています。現在の五剣山の山容を南海地震動の警鐘ランドマークとして、郷土の大地の宿命を忘れず、もしもの時に備え「家具の配置や転倒防止」など家族の命を守る具体的な対策に活かしてほしいと思います。この宝永地震は南海、東南海、東海地震の地震三兄弟といえる地震が同時に発生したもので過去の南流地震で最も大きなものであり、香川県でも大きな揺れがあったことを現在の五剣山の山容が教えてくれています。また地質構造的な特徴は、香川大学工学部 長谷川修一教授が社団法人四国建設弘済会平成2年2月発行の四国の地盤88箇所80番の中で、写真3、4の資料のように詳しく紹介しています。 得られる 現在の五剣山の山容は、南海地震動の警鐘ランドマークとして、香川県でも南海地震で大被害を受ける教訓 復在の五剣山の山容は、南海地震動の警鐘ランドマークとして、香川県でも南海地震で大被害を受ける教訓 後害防止 準備 災害対応 復旧・復興 自助 共助 公助 ハード ソフト | | | | | | | | | | | |
| 解説文 | | | | | | | | | | | |
| 解説文 其の響遠方まで聞えたり。」と大震動で崩落したことを伝えています。今後、遭遇するであろう南海地震では、地震動が大きく、被害を受ける危険性が高いことを教えてくれています。 現在の五剣山の山容を南海地震動の警鐘ランドマークとして、郷土の大地の宿命を忘れず、もしもの間に備え「家具の配置や転倒防止」など家族の命を守る具体的な対策に活かしてほしいと思います。 この宝永地震は南海、東南海、東海地震の地震三兄弟といえる地震が同時に発生したもので過去の南流地震で最も大きなものであり、香川県でも大きな揺れがあったことを現在の五剣山の山容が教えてくれています。また地質構造的な特徴は、香川大学工学部 長谷川修一教授が社団法人四国建設弘済会平成 2年2月発行の四国の地盤88箇所80番の中で、写真3、4の資料のように詳しく紹介しています。 得られる 現在の五剣山の山容は、南海地震動の警鐘ランドマークとして、香川県でも南海地震で大被害を受ける教訓 危険性があることを教えくれています。 | | 香川大学長谷川修一教授らが調査結果(写真 6)では、北部(庵治町側)と南部(牟礼町側)転倒崩落 | | | | | | | | | |
| 解説文 では、地震動が大きく、被害を受ける危険性が高いことを教えてくれています。 現在の五剣山の山容を南海地震動の警鐘ランドマークとして、郷土の大地の宿命を忘れず、もしもの既に備え「家具の配置や転倒防止」など家族の命を守る具体的な対策に活かしてほしいと思います。 この宝永地震は南海、東南海、東海地震の地震三兄弟といえる地震が同時に発生したもので過去の南海地震で最も大きなものであり、香川県でも大きな揺れがあったことを現在の五剣山の山容が教えてくれています。また地質構造的な特徴は、香川大学工学部 長谷川修一教授が社団法人四国建設弘済会平成 2年2月発行の四国の地盤88箇所80番の中で、写真3、4の資料のように詳しく紹介しています。 現在の五剣山の山容は、南海地震動の警鐘ランドマークとして、香川県でも南海地震で大被害を受ける教訓 危険性があることを教えくれています。 教訓 対別 被害防止 準備 災害対応 復旧・復興 自助 共助 公助 ハード ソフト | | してことが報告されています。当時の様子を牟礼町史は、「五剣山の一峰崩れて落ちたり。火光雷の如く、 | | | | | | | | | |
| では、地震動が大きく、被害を受ける危険性が高いことを教えてくれています。 現在の五剣山の山容を南海地震動の警鐘ランドマークとして、郷土の大地の宿命を忘れず、もしもの間に備え「家具の配置や転倒防止」など家族の命を守る具体的な対策に活かしてほしいと思います。 この宝永地震は南海、東南海、東海地震の地震三兄弟といえる地震が同時に発生したもので過去の南海地震で最も大きなものであり、香川県でも大きな揺れがあったことを現在の五剣山の山容が教えてくれています。また地質構造的な特徴は、香川大学工学部 長谷川修一教授が社団法人四国建設弘済会平成2年2月発行の四国の地盤88箇所80番の中で、写真3、4の資料のように詳しく紹介しています。 現在の五剣山の山容は、南海地震動の警鐘ランドマークとして、香川県でも南海地震で大被害を受ける教訓 危険性があることを教えくれています。 教訓 分類 被害防止 準備 災害対応 復日・復興 自助 共助 公助 ハード ソフト | AZ 弐台 → | 其の響遠方まで聞えたり。」と大震動で崩落したことを伝えています。今後、遭遇するであろう南海地震 | | | | | | | | | |
| に備え「家具の配置や転倒防止」など家族の命を守る具体的な対策に活かしてほしいと思います。 この宝永地震は南海、東南海、東海地震の地震三兄弟といえる地震が同時に発生したもので過去の南海地震で最も大きなものであり、香川県でも大きな揺れがあったことを現在の五剣山の山容が教えてくれています。また地質構造的な特徴は、香川大学工学部 長谷川修一教授が社団法人四国建設弘済会平成 2年2月発行の四国の地盤 88 箇所 80 番の中で、写真 3、4 の資料のように詳しく紹介しています。 得られる 現在の五剣山の山容は、南海地震動の警鐘ランドマークとして、香川県でも南海地震で大被害を受ける危険性があることを教えくれています。 教訓 分類 被害防止 準備 災害対応 復旧・復興 自助 共助 公助 ハード ソフト | 州中北人 | では、地震動が大きく、被害を受ける危険性が高いことを教えてくれています。 | | | | | | | | | |
| この宝永地震は南海、東南海、東海地震の地震三兄弟といえる地震が同時に発生したもので過去の南海地震で最も大きなものであり、香川県でも大きな揺れがあったことを現在の五剣山の山容が教えてくれています。また地質構造的な特徴は、香川大学工学部 長谷川修一教授が社団法人四国建設弘済会平成2年2月発行の四国の地盤88箇所80番の中で、写真3、4の資料のように詳しく紹介しています。 現在の五剣山の山容は、南海地震動の警鐘ランドマークとして、香川県でも南海地震で大被害を受ける教訓 た険性があることを教えくれています。 教訓分類 被害防止 準備 災害対応 復旧・復興 自助 共助 公助 ハード ソフト | | 現在の五剣山の山容を南海地震動の警鐘ランドマークとして、郷土の大地の宿命を忘れず、もしもの時 | | | | | | | | | |
| 地震で最も大きなものであり、香川県でも大きな揺れがあったことを現在の五剣山の山容が教えてくれています。また地質構造的な特徴は、香川大学工学部 長谷川修一教授が社団法人四国建設弘済会平成 2年2月発行の四国の地盤 88 箇所 80 番の中で、写真 3、4 の資料のように詳しく紹介しています。 得られる 現在の五剣山の山容は、南海地震動の警鐘ランドマークとして、香川県でも南海地震で大被害を受ける教訓 危険性があることを教えくれています。 教訓分類 被害防止 準備 災害対応 復旧・復興 自助 共助 公助 ハード ソフト | | | | | | | | | | | |
| います。また地質構造的な特徴は、香川大学工学部 長谷川修一教授が社団法人四国建設弘済会平成 2 年2月発行の四国の地盤 88 箇所 80 番の中で、 写真 3、4 の資料のように詳しく紹介しています。 得られる 現在の五剣山の山容は、南海地震動の警鐘ランドマークとして、香川県でも南海地震で大被害を受ける 教訓 危険性があることを教えくれています。 教訓分類 被害防止 準備 災害対応 復旧・復興 自助 共助 公助 ハード ソフト | | | | | | | | | | | |
| # 2 月発行の四国の地盤 88 箇所 80 番の中で、 写真 3、4 の資料のように詳しく紹介しています。 得られる 現在の五剣山の山容は、南海地震動の警鐘ランドマークとして、香川県でも南海地震で大被害を受ける 教訓 危険性があることを教えくれています。 教訓分類 被害防止 準備 災害対応 復旧・復興 自助 共助 公助 ハード ソフト | | | | | | | | | | | |
| 得られる 現在の五剣山の山容は、南海地震動の警鐘ランドマークとして、香川県でも南海地震で大被害を受ける 教訓 危険性があることを教えくれています。 | | | | | | | | | | | |
| 教訓 危険性があることを教えくれています。 教訓分類 被害防止 準備 災害対応 復旧・復興 自助 共助 公助 ハード ソフト | 但さかっ | | | | | | | | | | |
| 教訓分類 被害防止 準備 災害対応 復旧・復興 自助 共助 公助 ハード ソフト | | | | | 一クとしく、香川 | 宗 じも 肖 伊 地 農 で ブ | N放告を 又 ける | | | | |
| | | | | | 自助 #助 | 次助 ハー | -ド ソフト | | | | |
| | | | | | | | | | | | |

| 整理番号 | 香震 6 長尾断層 | | | | | | | | | | |
|-------------|---|----------------------------------|---------------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 災害種別 | 水害・治水 | 地震・津波 | 土砂災害 | 渇水・利水 | | | | | | | |
| 場所 | 香川県高松市、 | 香川県高松市、三木町、さぬき市 | | | | | | | | | |
| 見所・ アクセス | 市大川町に至るま 「長尾衝上断層」 5mの低断層崖か | 長さ約 24km が活断層とされ として、香川県指定天然記 | ています。さぬき市長届 念物にしてされていま | 逆断層で、高松市香南町から、さぬき 尾町西では、長尾断層が露出した崖が す。また三木町氷上では、比高約 1. | | | | | | | |
| 写真・図 | 日本 | | | | | | | | | | |
| 解説文 | 写真1 写真2 写真3 香川県高松市、三木町、さぬき市にわたる長尾断層は、南側の花崗岩類が第四紀堆積物の上にのし上がった逆断層で、高松市香南町からさぬき市大川町に至る長さ約24kmが活断層とされています。さぬき市長尾町西では、長尾断層が露出した崖が「長尾衝上断層」として、香川県指定天然記念物に指定されています。三木町氷上では、比高約1.5mの低断層崖が残っています。この低崖は、長尾断層の最新の断層活動による地表のずれで、長尾断層の地震の跡(写真1)です。この地点のトレンド調査によって長尾断層の最新活動時期が9~16世紀であることが明らかになりました。 香川大学工学部 長谷川修一教授が断層露頭写真やトレンチ調査写真などを示し詳しく四国の地盤88 箇所72番で写真2、3の資料のように紹介しています。 | | | | | | | | | | |
| 得られる | 長尾断層の最新 | 所活動時期が 9~16 世紀であ | ることが明らかになっ | たことから、今後近い将来の活断層地 | | | | | | | |
| 教訓 | 震発生の可能性を | を検討することができること | を教えています。 | | | | | | | | |
| 教訓分類 | 被害防止 | 準備 災害対応 復日 | 1・復興 自助 共 | 助 公助 ハード ソフト | | | | | | | |
| 時代 | 江戸時代以前 | 江戸時代 明治 | 大正 昭和30年代ま | で 昭和 60 年代まで 平成以降 | | | | | | | |

| 整理番号 | 香震 7 南海地震地盤沈下対策・白鳥湛水防除事業竣工之碑 | | | | | | | | | | | |
|------------|--|------------------------------------|----------|-------------------------------|-----------------------------------|---|---|---|------|--|--|--|
| 災害種別 | 水害・治水 地震・津波 土砂災害 渇水・利水 | | | | | | | | | | | |
| 場所 | 香川県東 | 香川県東かがわ市湊1602 | | | | | | | | | | |
| 見所・ | 東かがわ市白鳥町の湊川河口付近の東側に白鳥自動車学校があります。その傍の右岸堤防の堤防内地に | | | | | | | | | | | |
| アクセス | 南海地震地 | 南海地震地盤沈下対策の白鳥湛水防除事業竣工之碑(写真1)があります。 | | | | | | | | | | |
| 写真・図 | 写真 1 | 九九日高祖本明報 日見領水代表 | 1 | 写真 3 | の設工版 西2 の設工版 西2 302年3月16日編版 | (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) | 7 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | O TO THOU SEE THE SEE | 其 5 | | | |
| 説文 | 写真 6 写真 7 写真 8 写真 9 写真 10 74 年前の昭和 21 年 (1946) 12 月 21 日 4 時 19 分頃、南海地震が発生しました。四国では太平洋側だけでなく、瀬戸内海側でも様々な被害が起こりました。香川県内では、昭和南海地震より死者 52 人、負傷者 273 人、家屋の全壊 608 戸、半壊 2, 409 戸などの被害がでました。昭和南海地震では高知では地震直後 1. 2m の地盤沈下したことがよく知られていますが、意外と知られていないのが、瀬戸内海側の香川県や愛媛県でも地盤沈下があったことです。四国地方地盤変動調査報告書(昭和 26 年 7 月)の四国地方の地盤変動量分布図 (写真 2) によると、高知では、55cm の沈下があったと記録されていますが、、瀬戸内海側の高松や松山でも約 30~40cm 程度の地盤沈下があり、引田でも 29cm の地盤沈下があったこと、その後の昭和 25 年のジエーン台風で高潮被害が頻発したことが報告されています。その結果、白鳥町(現東かがわ市)では白鳥の松原 (写真 3) が浸蝕され、東部の新川流域の耕地も低地と化し、海水の侵入を見るに至りました。その後も排水不良に悩まされ、数十ミリの降雨でも田畑の湛水が差だしく、住居は床上浸水が常襲化しました。四国地方地盤変動調査報告書には、「香川県では、大川郡と三豊郡が沈下被害が大きい。このあたりの沈下量は 29cm、相生村(現在の引田町の一部)では沈下後その用をなさなくなった水門を通じ、又一部は弱小堤防を浸透あるいはオーバーして高潮が浸入し、水田約 35 町歩を 48 時間にわたって水底に沈めてしまった。その為収穫皆無と地盤沈下による被害の記述があります。また (写真 4) では、〇引田町大明神海岸(地盤沈下未復旧時)と(復旧時)の比較写真 〇自馬本町海岸(沈下後一応石積む護岸を築造復旧したが尚僅かの波浪にも背後を洗われ崩壊する)〇同一ケ所の(波浪は堤防を人家を洗う)といった、地盤沈下のため波浪が堤防を越えて被害を与えている様子が報告されています。また白鳥の松原周辺では、昭和 36 年 (1961) 9 月の第二室戸台風及び10 月の集中豪雨でも 250ha が水没し、民家はほとんど床上浸水となりました。昭和 38 年に県営白鳥湛水防除事業が採択、地盤沈下対策として湊川河口付近の右岸側(写真 5)に白鳥排水機場 (写真 6、7) が施工され、除塵機前に竣工碑(写真 8) が建立されています。このような対策を参考に、今後発生する南海トラフの地震・津波に備え、地盤沈下は瀬戸内沿岸地域でも発生することを前提に、地震対策は津波と地盤沈下を考えることが必要です。東かがお市の地域防災計画 【地震・津波対策編】によると、白鳥港における南海トラフ地震(最大クラ ス) 想定津波高は、最高津波水位 2. 5m (7. P+m、最高津波改館 6. 9m、地盤沈下 0. 6m、朔望平均満潮位 1. 0 | | | | | | | | | | | |
| 得られる 教訓 | 地盤沈下対 | 策として農地の | 後旧・復興 | が起き冠水した には、排水施設 が必要を教えて | の整備な | | | | | | | |
| 教訓分類 | 被害防 | | 災害対応 | | 自助 | 共助 | 公助 | ハード | ソフト | | | |
| 時代 | 江戸時代 | | 三時代 | 明治・大正 | 昭和 30 年 | | 昭和 60 年代 | まで | 平成以降 | | | |

| 整理番号 | 香震 8 | 震8 ため池水害のランドマーク・『金毘羅の鞘橋』 | | | | | | | | | |
|-------------|---|--|---|---|--|------------------|---|---|-----------------|--|--|
| 災害種別 | 水害・治2 | 水害・治水 地震・津波 土砂災害 渇水・利水 | | | | | | | | | |
| 場所 | 香川県仲多度郡琴平町743-1 | | | | | | | | | | |
| 見所・ アクセス | で流出し再建さ | 【金刀比羅宮】で有名な香川県琴平町には、町内を流れる金倉川に嘉永7年(1854)7月の満濃池決壊で流出し再建された屋根を持つアーチ型の木造橋の鞘橋(写真1)が、ため池決壊被害のランドマークとして存在しています。 | | | | | | | | | |
| | 本用の内 ・ 大きの間に企画を含む。企画の調味を認い、 ・ 大きの間が、原本等人に応わる。我の意味を認い、 ・ できまった。 | ACAMONING STREET OF LINE | 18 19 7 - 7 19 A 18 18 18 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 | 東京 Man A San A Sa | A SECOND PROPERTY OF THE PARTY | 9.00 | 現成を支援機の機構の機構を関する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | #27 m 31 #53 m 42 25 917 经基本 1021 工作。 1184 新版和 1676 持以任 1628 西州八郎 | . 海外。(FP 大部。二)) | 学子 (別知のでするませく) 上支市 (別知のでするませく) 上支市 場合かな工業所得たな会 でする。(人とであ) 12 2000 乗 が12 2000乗 第一日本の大学研究を入り、(本年1000) からからからない、(本年1000) からからからからない。(本年1000) | |
| 写真・図 | 写真 1 | の要種 明治39 | 子具 Z | 漢葉液ハザートマップ | 写真3 | 大宮標 委選 | 写真 4 | ハサードマッフ | 一一子・身 | 真 5 | |
| | DESCRIPTION OF THE PROPERTY O | COMPANIES OF A STATE O | の選手をよりのから の選手をよりの数字を を、通信・見事・を からままだった。 前いた始度 からなまだった。 がの位置時代が形式 すの位置時代が形式 貴重な質判である。 ただし、復興に載せ その機切から返出して いるようながらない。 | 出版的 | SCHOOL STATE OF THE SCHOOL | BEAUTICAS STATES | R. SHROPEPHHEVAN-BAR | JH-045/152084 | ~ 古 | | |
| | | | | | <u> </u> | | | | | - | |
| 解説文 | 写真6 写真7 写真8 写真9 写真10 この輪橋は、明治2年5月に阿波麻植郡(現在の徳島県吉野川市)講中の寄進より再建され明治38年、橋の架け替え工事にともない現在の場所に移設されています。当時の輪橋は、現在の輪橋(写真2)から約300m下流の金毘羅参道に正面の一之橋にありました。平成10年4月21日に国の登録文化財に指定されています。説明看板(写真3)には、「琴平町内を流れる金倉川に架かる、全国的にも珍しい、屋根を持つアーチ型の木造橋。伝承によると、輪橋は元禄年間頃内町一之橋の所に建設され、江戸時代には、幾度も7月の満濃池決壊で流出し再建されたことが分かります。香川県仲多度郡まんのう町にある満濃池(写真4)は、空海が改修したことでも知られ、現在、日本最大の灌漑用のため池であり、周囲約20km、貯水量1,540万トン、堤高32mの規模であります。国の名勝に指定され、6月のゆる抜きには多くの観光客が訪れています。満濃池の略史(写真5)から満濃池ボ幕末の伊賀上野地震後に決壊し、その後16年間、明治初期まで復興されなかったことが分かります。写真6示すように満濃池堤防の構造変遷図から伊賀上野地震で決壊した満濃池堤防は、推定堤高が21.3mで、現在の堤高32mより10m程度低い規模であったことが分かります。この満濃池堤は、伊賀上野地震(嘉永7年(1854)6月)でダメージを受けた一ヶ月たらずの7月に決壊し、多量の貯水が濁流となって下流の集落を襲い大きな被害が発生したことが記録として残めた普請にあったとされています。史料「讃岐国那珂郡満濃池近郷御料私傾絵図」には、満濃池決壊後の下流の様子や満濃池の跡地に金倉川の川筋だけが残っている様子が描かれています。また,高松松平家歴史資料「靖公実録三」には、「大水となり放出した満濃池の水が、金毘羅の鞘橋を直撃し、さらに金毘羅の町内にも水が押入り、被害を与えた」という記録も残っています。明治3年の「満濃池水掛材々之図」(写真7)には、嘉永7年地震決壊の復興後の満濃池とその配水流域村々を、高於・丸亀・多度津三藩と倉敷県金刀比羅宮社領の各支配ごとに色分けして描いた絵図では、校分かれした配水路と各村々の位置関係が把握でき、当時の満濃池の広範にわたる配水地域が分かります。現在の満濃池が決壊した場合のボードマップ(写真8)が県や市町村から公表されています。写真10は満濃池が決壊した場合のが売ードマップ(写真8)が県や市町村から公表されています。写真10は満濃池の下流から撮った航空写真にハザードマップから推定したおまその浸水区域をフリーハンドで描いたものを示しています。氾濫が配水地域と同じように広範にわたることが分かります。ため池が多い香川県では、ため池決壊を他人事や昔のことと考えてはいけません。現在でも自然災害において被害規模の想定や、その被害発生に直面した際の対応について、過去の地域の災害事例が参考になります。 | | | | | | | | | | |
| 得られる 教訓 | | | | 被害を受けたこ震に備えた「た | | | | | | | |
| 教訓分類 | 被害防止 | 準備 | 災害対応 | 復旧•復興 | 自助 | 共助 | 公助 | ハー | F | ソフト | |
| 時代 | 江戸時代以前 | 江戸 | 時代 | 明治・大正 | 昭和 30 | 年代まで | 昭和 60 年代 | まで | 平月 | | |